

ともだちのわ

T O M O D A C H I N O W A



千葉女子専門学校附属聖こども園



認定こども園 鏡戸幼稚園



さざれ幼稚園



認定こども園 千葉敬愛短期大学附属幼稚園

Contents

- P02 巻頭言 千葉市幼稚園協会会長 岸 憲秀 (兼幼稚園理事長・園長)
- P03 千葉市幼稚園協会 研修会
- P06 幼稚園教育研究会(公開保育)を終えて
- P08 親子教室
- P09 お弁当・給食だいすき
- P10 保育室の窓から
- P11 視察研修会を終えて
- P12 協会からのお知らせ 編集後記

星先生に学ぶ～こどもたちと楽しく過ごすために



千葉県幼稚園協会会長
(羔幼稚園理事長・園長)

岸 憲秀

2020年の新年1月の例会の折、併せて、幼稚園・こども園における危機管理を主題に理事長・園長研修会を予定していましたが、講師の急病でそれがありませんでした。幸い、講師の星先生はその後回復されましたが、よい機会を逃したことは残念です。そこで、今回、星先生のご了解のもと、先生のお考えを、私なりにまとめた一文をここに寄せさせていただきます。

星幸弘先生は、千葉南警察署長を歴任された警察官であり、退官後、千葉大学大学院講師をされるとともに、ひまわり幼稚園の理事長として私どものよき仲間でもあられます。学校関係者、保護者向けに講演活動を全国的に展開され、とりわけ危機管理の視点からの子育て論の専門家でもあります。

今回は先生が特に『よいこのあんぜんニュース』（少年写真新聞社）で連載された記事を読みつつ、先生のお考えを共有したいです。

幼稚園の園庭で日常起こるさまざまな出来事。遊具から子どもが落ちたとき、子ども同士がトラブル（けんか）を起こしたときなど、あげればきりがないです。もちろん、日ごろから遊具の安全確認は当然のことですが、それでも事故が起きてしまいます。「あ

ぶないから」と遠ざけては保育になりません。子ども同士のけんかだってそうです。成長過程では避けることのできないものであり、子どもたちはそれを通して成長していきます。問題はそれらが起きたときに、どう対応するかが問われてきます。

星先生はこれらの対応の基本的かつ最も大切なこととして「信頼関係」をあげています。「極端な話、事前の危機管理としての、担任(園)と保護者との信頼関係が築けていれば」と。トラブルの大小に関わらず両者の信頼関係が鍵となります。その信頼関係が崩れたり、あるいは最初から築くことができなくなったりすると、問題が大きくなっていくというわけです。

そこで求められることは、トラブルに対する真摯な対応ということになります。事実関係をきちんと調査し対応しなければなりません。それをせずに安易に謝罪するようなことはすべきではないし、かえって信頼を崩すことになってしまいます。このような冷静な分析力が求められるでしょう。また、日ごろから保護者に対して園の方針を説明し理解を促すことも必須です。

一方で保護者の皆さんも、幼稚園・こども園の教育方針をよく理解するよう努めることは必須です。特に千葉市の幼稚園・こども園は私立ばかりであり、それぞれの教育方針のもとに保育がなされています。それらを正しく理解し、信頼して接していただきたいと思います。

大切なお子さんの最初の社会としての幼稚園・こども園が子どもたちの園として輝くために、園と家庭とがまず信頼関係をもって子どもたちと向き合う場として、千葉市の幼稚園・こども園が輝くべきであると考えます。「楽しい」を共有する場であることを願っています。

千葉県幼稚園協会 研修会

千葉県幼稚園協会では教育・保育力向上を目的として、毎年さまざまな研修会を企画しすべての教職員が参加しています。今年度開催された研修会の報告をいたします。

研究部会

研究部会では、昨年度から連続したテーマとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について生活や遊びのなかでの育ちを捉え、どのように実践に繋げていくのかを考えました。

港北幼稚園・ゆうゆうのもり幼保園の渡邊英則先生には「これからの教育課程の理念」について、玉川大学の若月芳浩先生には「カリキュラム・マネジメント」の重要性と新しい時代の保育を考える必要性について教えていただきました。千葉経済大学短期大学部の中島千恵子先生にはワーク形式で自園の保育を見つめ直し「結果ではなく遊びのプロセスを楽しむことが大切であること」について教えていただき、共立女子大学の田代幸代先生からは、1年間のまとめとして「振り返りの大切さと明日以降に活かせる記録の仕方」を学ばせていただいた中味の濃い1年になりました。

ました。熱心に参加した先生たち。今できることを少しずつ実践していこうという意欲をもった、充実した部会となりました。



子どもたちが遊んでいる写真を持ち寄り、グループワークにて幼児理解を深めていきました。



3歳児、4歳児、5歳児それぞれの時期にふさわしい指導の積み重ねを考え、グループ毎にポスター発表を行いました。

小谷 智恵子（由田学園千葉幼稚園）

事例研究会

事例研究会では、主に支援の必要な子どもたちについて「インシデントプロセス法による事例研究」を行っています。また、夏の研修では今年も施設見学（千葉市療育センター・千葉市大宮学園・稲毛保健福祉センター）と併せて「感覚統合」「合理的配慮」「子どもと大人の絆を深めるCAREプログラム」など専門的な研修も実施しました。特にCAREプログラムでは、私たちが子どもとの間にいい関係を築くことが難しいと感じるときに実践したい「肯定的なあたたかい関係作り」について学びました。

困難さを抱える子どもたちと日々向き合う先生方にとって、このような研修はエンパワーメントの機会であること、またその重

要性についても改めて実感しました。



CAREプログラムの研修から



事例研はグループに分かれて

鈴木 由歌（愛隣幼稚園）

特別支援教育研修会

今年度の研修は5月「登園したくない子どもたちに出会う私たちが考えること」7月「気になる子の視点から保育を見直してみませんか」「LDって聞いたことはあるけれど」映画「いろとりどりの親子～しあわせの形は無限に存在している～」「就学した子どもたちのこと～より良い連携のために～」2月「多様性で活かしあうチーム作り」という内容で実施しました。それぞれの研修会に参加された先生方は常に真剣に取り組み、明日の保育に活かせるものを学んでいたように思います。

インクルーシブ保育委員会では研修計画を立てる際に、はじめて保育の現場に入った先生からベテランの先生、管理者の先生に至るまでたくさんの先生方に研修会に参加していただけるように内容を考えています。各園の先生方が未来を拓く子どもたち

と社会のためにこの研修会が役立ってくれることを願っています。



登園したくない子どもたちに出会う私たちが考えること



グループ討議をして講師の先生の助言を受ける

鈴木 朱美（植草学園大学附属弁天こども園）

第1分科会

昨年から引き続き、～子どもの気持ちに寄り添う教師をめざして～を年間テーマに掲げて、今年度はヒップホップを踊ろう(体で刻むリズム感)、絵本がもつ魅力(絵本で育つ心と言葉)、講演(子どもをとりまく社会の現状と保育者の役割)、みんなで作る「参加型」お話し劇場(コミュニケーション能力)、ピアノとヴァイオリンの生演奏(表現豊かな人)、マジックショー(子どもが楽しむ保育)の研修会を実践しました。日々、子どもたちとかわる教師の保育の引き出しの幅が広がって、より感情豊かなかわりが子どもたちの心身の成長に大きく影響していくことと思います。「保育を楽しむ＝子どもたちの園生活が楽しい」につながって

いくものと期待が高まる研修会となりました。



積極的に意見交換をしていたグループ活動



初対面の人も、恥ずかしがらずに進んで声をかけあっていました

熊田 佳美 (子鹿幼稚園)

第2分科会

第2分科会は大島靖史先生による集団遊びやふれあい遊びについての研修から始まりました。第2回は中谷真弓先生にエプロンシアターの極意を教えてくださいながら実践も行い、子どもたちが話に引き込まれるような演じ方を学びました。また、椿俊和先生には感染症は罹患することで、強い免疫力をつけることができるということ学びました。第3回は「心が動けば体も動く」という石井友光先生からのお言葉で、子どもの心を動かせるような保育者になりたいと改めて感じました。最終回の荒木文子先生には、お話だけでなく連続技や手品など大人でも引き込まれてしまうようなパネルシアターの演じ方を学びました。これらの研修を通し

て学んだことを力にし、実際の保育で活かしていきたいと思えます。



体育遊びについてのお話です



体を動かしてふれあい遊び

松本 侑子 (認定こども園 ひまわり幼稚園)

第3分科会

今年度の第3分科会研修では①「手作りおもちゃを作ろう」②「楽しい科学あそび」③「運動遊びを通して豊かな心を育てる」④「HSCについて知ろう」という内容で研修を行いました。毎回の研修には多くの先生方が熱心に学ぶ姿が見られました。2学期の保育にすぐに役立つ内容のものもあり、真剣に制作したり、楽しんで体を動かしたりしながら他園の先生方と交流する場面が多く見られました。「日頃は忙しくなかなか時間をとって教材の準備や勉強をすることができないので、この研修は学びが多く嬉しいです」という感想をいただきました。今後もさらに有

意義な研修を計画していきたいと思えます。



ビニール袋で作ったロケットをとばそう



こいのぼりのトンネルをくぐってみよう

和田 由美 (認定こども園 千葉敬愛短期大学附属幼稚園)

第4分科会

今年度は、知識と実践を結び付けられるような研修を多く企画しました。

第1回目は「enjoy!アンサンブル!」のテーマで鈴木由美子先生に、アンサンブルの理解に始まり、指導に向けての導入の仕方や指導法をご指導いただきました。

第2回目は阿部恵先生にペープサートとうちわシアターの作り方と実践法についてご指導いただきました。

第3回目は嶋貫由寿先生に、座学にて体育遊びについて講義いただき、指導の方法ややる気にさせる言葉など、実際に体を動かして行いました。

第4回目は「絵本とメディア」のテーマで齋藤惇夫先生に、テレビなどのメディアに依存しがちな社会において、その危険性と絵本などを通しての大人とのかかわりの重要性についてご講義い

ただきました。

来年度も実り多い研修となるよう企画しますので、より多くの先生方のご参加をお待ちしております。



リズムに合わせて



小川をジャンプ

大溝 太郎 (泉幼稚園)

第5分科会

「子どもたちの健やかな育ち」を願い、そこにかかわる保育者の学びの場として、今年度も研修を計画しました。

「子どものけがの事例と危機管理」「うたっておどって!」「園児と楽しむ科学遊び」「絵本とメディア」等…どの研修にも熱心に参加していただきました。

科学遊びでは、千葉市科学館の副館長浅野先生をはじめボランティアの方々も来てくださり、科学の力をテーマに、作って、遊んで、楽しい時間を過ごしました。どの研修にも真剣な表情・喜びの歓声・笑顔が見られ有意義な時間でした。

「絵本とメディア」については、第4分科会と合同で行いました。『本を生涯の友とする子どもを育てるために』さらに『生きる喜びを子どもたちと共有するために』をテーマに齋藤惇夫先生にご講義いただきました。

心豊かな子どもを育てるために、あなたが絵本を好きなら子

ども絵本が好きになります。絵本が嫌いな子どもなどいません。絵本の中で味わった楽しみの量により心豊かな子どもに育つのです。保育者の役割を考えさせられました。

研修することは私たち保育者の成長につながることを感じた爽り多い研修でした。



「園児と楽しむ科学あそび」より



テーマ「身近なものを活かしたあそびの工夫」「音」を活かしたおもちゃの体験

関原 喜恵（認定こども園 山王幼稚園）

第6分科会

鶴川女子短期大学 国際こども教育学科 教授 森真理先生をお迎えしました。「レジジョ・エミリアの乳幼児教育に学び、毎日の保育を考える」をテーマに講演されました。主体的な遊びと学びが注目される背景と世界の乳児教育・保育の動向に迫りました。

リトミック指導では、国立音楽大学 音楽文化教育学科 准教授 伊藤仁美先生より「リズムの魅力～幼児の楽しいリトミック」「お話～リトミック」「絵本を用いた音楽と動き」などピアノに合わせて体を動かし、有意義な時間を過ごすことができました。

国立音楽大学 音楽文化教育学科 教授 林浩子先生には「絵本と子ども理解」をテーマに絵本を読み聞かせることで何が生まれる(人との関わりの中で)→信頼、愛着、絆、心の風景などを感じとることができる時間を演出してくださいました。

つばきこどもクリニック院長の椿俊和先生には「食物アレルギーの対応」について食物アレルギーの症状や、緊急時の対応などまた、練習用トレーナー（エビペン）を実際に手にし、実践す

ることができました。

第6分科会担当の水野より「小学校の生活～幼稚園からのスムーズな移行」ということで事例を挙げて話をしました。また、グループで「年長の担任として子どもたちの成長にどのような関わりを持って実践しているか」をテーマに意見交換を行いました。

今年度も中味の濃い研修会を実施することができたことに感謝申し上げます。



リトミック指導



絵本と子ども理解

水野 美由起（認定こども園 白梅幼稚園）

第7分科会

日頃は園のまとめ役や職員を指導する立場にすることが多い第7分科会の参加者には、今年度は見聞を広げて日頃の保育に活かしてもらおうと計画し実施しました。

第1回目はピアノとヴァイオリンのミニコンサートとオノマトペを用いたワークショップ、2回目は生き生き活動する屋外環境―園庭の環境を含めた子どもの環境について話を聞き、午後は自分たちの考える園環境をつくってみました。また、子どもの栄養とオーソモレキュラーについて、講師に東映プロデューサーを招いて「もの作りについて考える」の話を聞き、楽しく動いて体も脳も活性化させようとエアロビクスで実際に動いて汗を流しました。こども園になった園も多く、保育を引き受けての欠席も多い分科会ですが、感性豊かな参加者の皆様と良い研修ができたと思っています。



第1回 ヴァイオリンとピアノコンサート



第2回 理想の園庭環境を考えて発表

米澤 真理子
（認定こども園 千葉明德短期大学附属幼稚園）

幼稚園教育研究会(公開保育)を終えて

中央区

～五感を通して～感じる、考える、思いやる力～を研究テーマとして、保育を参観していただきました。子どもの明るさや無邪気さ、感情の豊かさは子どもの持っている力です。この力は行動や言葉、顔の表情、雰囲気によってあらわされます。「先生、みてみて!」と駆けよってくる姿に、悔し涙をこらえる姿に、子どもの些細な発見や驚き、喜びに共感できる感情豊かな先生であることを目標に日々取り組んできました。

当日は、多くの参観の先生方から「やりたい遊びや好きな遊びに向かっていく一人ひとりの子どもの主体性や生き生きとした姿、そして、保育者が落ち着いて、素敵な日本語で温かく子どもたちとの生活を展開していて、園舎や園庭の環境も素晴らしく、子どもたちは幸せだなと感じました」と感想をいただきました。

「子どもも先生も可能性は無量大です。誰にも計り知れない可能性があります。子どもと共に遊び、学び合いながら、新しい刺激を受けて挑戦していきましょう。苦しい辛い経験の中から工夫が生まれ、強い精神力が育まれます。否定的なものの見方をしないで肯定的な見方をすることが大切です」など、来賓の先生方からも胸に響くお言葉をたくさん頂戴しました。

たくさんの収穫を得ることができた研究会でした。研究会を終えて、教職員一同、清々しく晴れ晴れとした気持ちになっております。



園庭でドッジボール



みんなで輪になって体操

上野 洋子 (認定こども園 葵幼稚園)

中央区

自分で考えながら積極的に行動し、心も身体も逞しく成長してほしいと願い、日々の保育の中で子どもの素直な意見を引き出し、それを取り入れながら、子どもたちが意欲的・主体的に活動に関われるよう、計画を立ててきました。さまざまなことを感じたり考えたりする経験を積み重ね、試行錯誤しながら友達と協力して目標に向かっていく過程を大切に、幼児期の今しかできないことをたくさん経験してほしいと思います。

公開保育当日は、これまでの経験を生かして、友達や先生と関わりながら笑顔で生き生きと活動を楽しむ子どもたちの姿が見られ、反省点も多々ありましたが、ありのままの日常の様子を参観していただくことができました。そして、午後の研修会では多くの先生方から温かい言葉や助言をいただき、今後の励みとなりました。ありがとうございました。



全園児でお遊戯



「何色ができるかな?」

竹内 久美
(認定こども園 ひまわり幼稚園)

美浜区

今回の公開保育では、当園で長年「研究課題」として取り組んでいる「わくわくらンド」の様子を参観いただきました。学年やクラスの枠を超え、子どもたちが思い思いに遊び込む姿をご覧いただけたかと思えます。

全体テーマとして「おばけ」をイメージし、木工コーナー(自由製作)、製作コーナー(おばけペンダント)、絵の具コーナー(おばけのはじき絵)、戸外コーナー(おばけ的あて&おばけ電車)、ままごとコーナー(おばけ映画館、おばけ屋敷など、子どもたちが「わくわく」するようなコーナーを設定しました。子どもたちもたくさんのお客様に囲まれ、緊張しながらも楽しんでいました。

今回の公開保育を機に、自分たちの日々の保育を見直し、より充実した保育を展開できるよう努めていきたいと思えます。



おばけ電車



おばけ的あて

小清水 玲子 (ひばり幼稚園)

美浜区

当日は100名以上の先生にご参加いただきました。また、近隣の小学校や保育園の園長先生方にもご来園いただきました。

当園では「生きる力を引き出す保育の実践」として今年度は昨年度に引きつづき「試行錯誤しながら自分で考える」「それを必ず生活の中に生かす」という課題を取り入れた保育計画を立て「保育者の発問」や「言葉がけ」を研究しております。公開保育では4月からのそれぞれのクラステーマに添った保育の一部をご覧いただきました。

年少組では「えのぐあそび」「食育」年中組では「かがくあそび」「かずあそび」年長組では「ことばあそび」「順序数」「積み木の数の推理」を行い、どのクラスでも子どもたちの反応が良く、それぞれによく考えたりいろいろと試してみたり工夫したりする姿が見られました。

今回たくさんの先生方にご参観いただき、さまざまな感想、ご意見をうかがえる貴重な時間を持ってましたことを心より感謝申し上げます。

今後も「より質の高い保育」を目指し日々研究を重ねてまいりたいと思えます。



ピーマンってツルツル?



色が混ざってもおもしろいよ!

大山 まゆみ (真砂第一幼稚園)

花見川区

晴天に恵まれた公開保育。人懐っこい当園の子どもたちは多勢の先生方を迎えて、普段に増して嬉しそうでした。朝の身支度を終えて園庭で遊ぶ子どもたちは笑顔いっぱい。

主活動は縦割り保育で進めていた「おみせやさんごっこ」。今まで準備したものを自分たちの言葉で売り買いを楽しみ生き生きと活動する様子は、とても微笑ましかったです。途中から先生方にも参加していただきましたが、さすが先生方、園児たちにたくさん声掛けしてくださり、子どもたちも一段と張り切り、楽しい一日となりました。

午後は体育講師による体育あそびの研修。和気あいあいと、楽しみながら終了しました。参観の先生方からは温かい感想をいただき嬉しく思います。これからも子どもの心に寄り添って保育にあたりたいと思います。



おみせやさんごっこ



午後の研修

椎名 昌江（信徳寺あさひ幼稚園）

稲毛区

今年度は表現活動を中心に「対話」をテーマに取り組んできました。公開保育当日は良い天気にも恵まれ、大勢の先生方をお迎えして、保育を見ていただきました。各学年とも、明るい表情で生き生きと活動に取り組み、いつも通りの元気な声が響いていました。子ども同士が対話することで、相手のことも考えるきっかけとなり、問題解決の力をつけることに繋がっていると感じました。佐藤慎二先生の講演『困った子どもではなく、何かに困っている子ども』は、とても楽しく分かりやすい事例で「子どもの見方」の大切さを学んだ講演会でした。

研究会を迎えるにあたり、職員の向かうべき方向が明確になり、同じ思いや考えを共有しながら、日々の保育に取り組むことができました。今後も研究を続けながら邁進していきたいと思います。



聖劇の小道具作り(年長)



お店屋さんごっこ(年少)

高橋 夏子
(認定こども園 小ばと幼稚園)

若葉区

「パプリカ」の曲が流れ、園庭に集まった園児たち。元気あふれるkids体操から、多くの参観者の皆様にご覧いただきました。その後『食育』をテーマに「のびのびと心豊かななぞりっこ」をめざして、知育・徳育・体育のバランスのとれた豊かな保育を心がけて展開いたしました。また、本園の特色でもある給食を園児と共に体験していただくことで、全体会での講演テーマ「食育について」の内容をより深くご理解いただけたことと思います。講師は本園栄養士が務め、楽しく食べる子どもを育てるために、幼稚園や家庭でどのような環境を整えていくことが望ましいのか、改めて考える機会となりました。



元気よく朝の体操



リクエスト給食での食育授業

窪田 典子（加曽利幼稚園）

緑区

本年度は、園内研修のテーマを「好奇心や興味で始まった遊びを進化（深化）させて達成感を感じ、自信や自己肯定感につなげる保育」としました。各クラスの特徴や様子に合わせた活動の年間指導計画を立て、その経過を見ていただきました。年間を通して段階を踏んで取り組んできたことで、自信を持って活動に取り組む姿が見られました。参観の方々には、全学年での元気いっぱいの体操や子どもたち主体の保育、生活など普段の様子を見ていただけたと思います。全体会では、たくさんのご質問や感想をいただき、違う視点から自分たちの保育を振り返る良い機会となりました。講演会でも、毎日の保育の参考になる歌遊びやふれあい遊びを学ぶことができました。ありがとうございました。



しりとり迷路(年中)
次の言葉を考えて迷路を完成



共同製作(年長)
折り紙の柿で班ごとに1本の木を完成させる

中西 正恵（あすみ中央幼稚園）



2019年度 親子教室

会場: Qiball (きぼーる) 3Fアリーナ

千葉市幼稚園協会では子育て支援の一環として2~3歳児向けの親子教室を開催しております。今年度は7月13日(土)と9月7日(土)に行いました。その様子をご紹介します。



2019年度 親子教室のご案内

・専門講師の指導で、親子で楽しむ遊びの教室です・

7月13日(土) スティックあそび
Qiball(きぼーる) 3Fアリーナ

9月7日(土) 親子でリトミック
Qiball(きぼーる) 3Fアリーナ

ドラムを打つスティックを使って(手先を器用にした)リズムを打つだけでなく、いろいろなスティックを転がしてみよう

親子でたくさんふれあいがら、からたや楽器を使って音楽を楽しみます

参加費 無料

各回 A組10:10- B組11:10-
Qiball(きぼーる) (JR千葉駅 徒歩15分・JR成田「千葉中央」駅 徒歩5分)
2・3歳児(未就園児)と保護者
参加費 各回200円
申し込み 6/24(月)~28(金)
お問い合わせ (公社)千葉市幼稚園協会 ☎043-202-5005
10:00~16:00 (土日祝祭日除く)
★主催、お申し込みの際は調整させていただきます。
★2回までお申込み可能です。詳細は毎日確認をお願いします。
・当日は、専門講師と各校区の幼稚園教諭のボランティアにより運営します。・

(主催) 公益社団法人 千葉市幼稚園協会

令和元年 7月13日(土) スティックあそび

令和元年7月13日(土) きぼーるにて、親子教室が開催されました。内容は、スティック遊びです。ドラムを打つスティックを使って、手先を器用にしたり集中力を高めたりすることをねらい、リズムや音楽を通して活動しました。専門講師の方をお招きし、リズム遊びだけでなく、スティックを電車や山、お風呂に見立てて親子で楽しく活動しました。また、こまどり幼稚園、ひばり幼稚園、暁幼稚園の先生方が参加し見立て遊びの中で一緒にトンネルやお風呂を作るなど活動の援助をしました。

普段触れることのないドラムスティックを用いた活動で、参加した子どもたちも興味をもち主体的に取り組んでいました。親子で協力し合う遊びもあり、子どもだけではなく大人も楽しむことができた1日となりました。

飯田 菜々子、平井 真奈 (暁幼稚園)



スティックを転がしてみよう!



今度は投げてキャッチ!!



スティックを山に見立てて山登り!!!

令和元年 9月7日(土) 親子でリトミック

令和元年9月7日(土) Qiball(きぼーる) 3Fアリーナで、親子教室「親子でリトミック」が開催されました。

専門講師の松島萌先生、笹川なみ先生をはじめ、弥生幼稚園、こざくら幼稚園、みのり幼稚園の先生方で行いました。

親子教室では、タンバリン、鈴などの楽器を使って体を動かしながら音楽を楽しみました。

また、楽器だけでなく、布や小物を使い、揺らしてみたり、ボールのように投げたり、転がしたりと体を使っていろいろな活動を行いました。

子どもたちもお父さん、お母さんと一緒に笑顔で楽しんでいました。私も楽しい気持ちになりました。

会場はとても盛り上がり、楽しい一日になりました。

西銘 七海 (みのり幼稚園)



リトミックは楽しい!!

2020年度はより皆様に楽しんでいただけるように、参加しやすくなるような新たな企画を盛り込んで各区での開催を予定しています。お楽しみに!!

お弁当・給食だいすき



幼稚園、こども園に通う子どもたちのおいしいお昼ごはん…
ある日のお弁当・給食をご紹介します…



お弁当だいすき

本園では毎日お弁当を持参してもらっています。子どもたちのことを誰よりも一番よく分かっている保護者様に栄養・量・バランス・好みを考えていただき愛情たっぷりのお弁当をお願いしています。毎日作ることはとても大変ですが、親子の絆を深めるべく大切な幼児期にたくさんの手をかけていただき、集団生活をがんばって送っている子どもたちが安心して温かい気持ちで食べられるようにと考えています。

2名のある日のお弁当を紹介します。撮影を告知してから作っていただいたものではなく、突然ご協力をお願いしました。この日も子どもたちは大喜びで完食していました。

年少組
女兒



メニュー

- ・おにぎり
- ・えだまめ
- ・かぼちゃ
- ・とんかつ
- ・たまごやき
- ・ミニトマト
- ・たこやき
- ・みかん

～ お母様からのコメント～

普段、家ではあまり食べない野菜もお弁当に入れるとちゃんと食べるので、野菜は必ず入れるよう、心がけています。(簡単なものですが…)あとは一口サイズにして食べやすいようにもしています。そして色合いもなるべくカラフルにしてお弁当箱を開けた時に「喜んでくれるかな?」と考えながら作っています。

神田橋 佑希子 (小中台幼稚園)

年長組
男児



メニュー

- ・ふりかけごはん
- ・しらす入り卵焼き
- ・エビフライ
- ・ウインナー
- ・ミニトマト
- ・ブロッコリー

～ お母様からのコメント～

黄色や茶色のおかずが多いので、赤(トマト)・緑(ブロッコリー・ほうれん草)も入れる様にしています。嫌いな物もお弁当に入れると食べてくれて3年間で食べられる物が色々増えました。空のお弁当箱を持って帰って来ると、一日の頑張りを感じ安心します。

濱田 恵美子 (小中台幼稚園)

給食だいすき

行事食



メニュー

- 行事食「こいのぼり」
- ・こいのぼりハンバーグ
 - ・ポテトサラダ
 - ・ごはん
 - ・汁物
 - ・オレンジ

行事食は、端午の節句、七夕、重陽の節句、おはぎ、十五夜、クリスマス、七草粥、節分、ひな祭りを行っています。行事の由来にまつわるパネルシアターやお話、ふれあい遊び、クイズなど行ったあとは、子どもたちが楽しみにしている給食です。端午の節句では、こいのぼりハンバーグ、七夕では星型の人参を飾った七夕そうめんなど、行事にちなんだ献立にしています。クリスマスのお楽しみ会では、好きな味のゼリーを選び、生クリーム・フルーツ・小さな星型の砂糖菓子・フルーツミックスゼリーなどを選んでトッピングを楽しんでいました。行事食はいつもより、少し手の込んだ献立に忙しくはなりますが、子どもたちの嬉しそうな顔をみると、私たちも嬉しくなります。今後も行事にちなんだ物を食の場面からも子どもたちに伝えていければ良いと思います。

給食



メニュー

- ・メカジキのケチャップ煮
- ・キャベツとホタテのサラダ
- ・ごはん
- ・味噌汁
- ・みかん

献立は、栄養摂取量を考え、食の安全・安心を第一に、できるだけ旬の食材を使って季節感のある献立となるよう工夫しています。保護者への試食会もっており、子どもたちと一緒に食べ、レシピの配布や味付けや1食分の量、普段食べている様子などをお伝えしています。子どもたちは、とうもろこしやそら豆などの野菜の皮むきや、もやしをポキポキ折ったり、しめじをさいたり、クッキング等食材に関わる経験をしています。1番人気の献立はカレーで、その日の子どもたちの食欲には驚かされます。他には、肉料理の献立が好きですが、魚や切干大根の煮付け等、和食の献立も良く食べます。「おいしかった～」「これは苦手だった～」「おかわりした!」などの声もかけてくれ、そんな子どもたちの姿が嬉しく、毎日の励みになっています。これからも、子どもたちが楽しみになるような給食を作っていきたいと思います。

藤本 美雪 (植草学園大学附属弁天こども園・栄養士)

保育室の窓から



けん玉遊び

新検見川幼稚園 森下 理香

年長組に進級すると、個人用のけん玉を持つようになります。たくさんの練習を重ね、二学期を迎える頃には「もしかめ」ができるようになり友だち同士で競争するようになります。この「けん玉大会」で、毎年ドラマが繰り広げられるのです。「〇〇ちゃんに負けたくない」「この技ができるようになりたい」と自分の目標を持つことで、勝った喜び、負けた悔しさ、挫折や成功を感じるようになります。



今年も悔し涙、喜びの涙…様々な心動く場面が見られました。「もっと出来たのに」「〇〇くんに負けたくなかった」それぞれの気持ちに寄り添いながら、教師は「次」に繋がるように声を掛けていきます。悔しい気持ちをバネに練習に励む子どもたちの姿を見て「けん玉遊び」を通して諦めないこと、継続することの大切さに気付くことができるのだと感じました。そしてその経験が、これから良い芽を出してくれると信じて今後もけん玉あそびを行っていきます。

私の好きな絵本

「かがえりのみず」

文：こわせたまみ 絵：石倉欣次

飲むと若返ることができるという不思議な泉の話聞いたおばあさんは、嬉々として山に出かけます。さておばあさんの思惑通りにいくのでしょうか？「やっぱりね～」と言ってしまったような落ちに、子どもたちは大笑いでした。

お話の世界を楽しんで

土岐幼稚園 横山 萌

土岐幼稚園の年中組では絵本作りが盛り上がっています。ひとりの子が、描いた絵をつなぎ合わせていたので、保育者が「絵本みたいだね」と声をかけると、すぐにすらすらと絵に合った物語を考えてくれました。降園前の絵本の時間にその絵本を紹介したところ「ぼくもつくりたい!」「わたしもおはなしをかんがえたよ!」と、次の日から絵本作りが大流行!!



紙の大きさや表紙にもこだわり、思い思いの絵を描く姿が見られています。お話の長さやページ数はそれぞれですが、完成した絵本をクラスのみんなの前で紹介されると、どの子も誇らしげな表情を見せ、大切に持ち帰っていきます。友だちが作ったものを見て「おもしろいね!!」「絵がきれい!」と友だち同士で認め合い、自分との違いを褒め合う声も聞かれるようになりました。

園生活や友だちにも慣れ、言葉や描画での自己表現が上手になってきた子どもたち。これからも遊びを通して、自分らしさをのびのびと表現することで、自信をつけ、豊かな感性を育てていって欲しいと思っています。

私の好きな絵本

フレデリック

ちよっとかわったのねずみのはなし

作：レオ＝レオニ

訳：谷川俊太郎

ねずみたちは冬支度で大忙し。でもフレデリックは違いました。みんなとは一風変わったフレデリック。怠けているのかと思ったら冬になると自分が集めていたものについて話します。谷川俊太郎さんのリズムの良い言葉に引き込まれ「目には見えないけれど大切なもの」について考えさせられる温かい作品です。

クッキー作り

へいわ幼稚園 中川 史帆

へいわ幼稚園では、誕生会のおやつを子どもたちと相談して作るということを行っています。年中組では11月の誕生会のおやつとしてクッキー作りを行いました。子どもたちにおやつがまだ決まっていないことを相談したところ、昨年、年少組で経験したことを思い出し「クッキーなら作れる!」と自信たっぷりに答えてくれました。誕生会のおやつなので、自分たちの分だけではなく、年長組や年少組お家の方や先生方の分も作らなければいけないことも伝えると「大変だ」「多いね」という声もありましたが「頑張る!」とやる気を見せてくれました。前日には粘土を使って生地分け方や形作りを疑似体験し、クッキー作りに備えます。クッキー作りの日はお手伝いのお家の方や先生に手伝っていただきながら、丁寧に行うことができました。生地を8等分するところは難しかったですが、手伝ってもらいながら一生懸命行う姿がとてもほほえましかったです。形作りでは前日に粘土で経験したことを思い出し、動物やハートなどのさまざまな形の可愛いクッキーを作っていました。



ふっくら、こんがり焼けたクッキー、美味しくいただくことができました。子どもたちはあっという間に完食!「またやりたい!」という子どもたちの声もあり、その気持ちを今後の保育のなかでも大切にしていきたいです。

私の好きな絵本

「おおきくなるっていうことは」

作：中川ひろたか

絵：村上康成

出版：童心社

「おおきくなる」ということは、どんなことなんだろう…。絵本を通して、子どもたちと成長を共有できる本です。1年の締めくくりにこの時期に、子どもたちと一緒に読みたい1冊になっています。

視察研修会を終えて

紅葉も終盤の11月22日に、群馬県伊勢崎市にある学校法人光明学園すみよし幼稚園に視察に行つて参りました。

周囲にはのどかな田園風景が広がり、1年の前半は鼓笛練習、後半は和太鼓の練習に励んでいるという園長先生のお話がありましたが、全く問題のない環境であると納得しました。

すみよし幼稚園は、昭和27年に創立された歴史と伝統のある幼稚園です。当日は大勢の大人が保育室に入っても、子どもたちは落ち着いて活動に取り組み、穏やかなかわいい笑顔がとても印象的でした。満3歳児の保育室に入ると、24～25名の子どもたちが全員姿勢よく椅子に座り、私たちが入室したことに動揺することもなく先生の話をしっかり聞く姿に感心しました。



ホールに飾られたミノムシの作品と和太鼓

園舎内を一通り見て回った後、預かり保育で利用している園舎に案内され、群馬のグルメの一つである



焼きまんじゅうと箸袋

「焼きまんじゅう」でもてなしていただきました。添えられていた箸袋には、園長先生お手製の「すみよし」の頭文字「S」をおなかにつけたかわいいキャラクターの消しゴムハンコが押されていました。

すみよし幼稚園は、来年度4月から認定こども園に移行するというので、1歳児からの受け入れを始めるために現在、1歳児2歳児の保育室と厨房、ランチルームの増築を進めている最中でした。

柳澤理事長のお話と参加者の先生方からのたくさんの質問に答えていただくなかで、園舎増築や教職員の確保にご苦労されている様子がうかがえました。

同じ関東でも南部の首都圏に近い辺りは、私学助成園が多い状況ですが、北関東の群馬県では逆にこども園への移行が8割近く進んでいるということで、こども園への移行に踏み切ったということでした。群馬県では、幼稚園協会、保育園協会、こども園協会3つが合同で就職説明会を開き、その際に配布される冊子を見せていただきました。ページをめくると各園の内容が分かり、QRコードからは待遇まで分かる作りでした。



柳澤理事長、柳澤園長を囲んで

こども園への移行や職員の採用について大変参考になる視察で、このような貴重な研修の機会をいただきました、すみよし幼稚園の皆様へ感謝申し上げますとともに、学んだことをこれからの園運営に生かしてまいります。

小川 順子（あすみ中央幼稚園）

第3回 幼稚園・こども園フェア

2020年 6月27日(土) きぼーるにて開催決定!!

千葉市の幼稚園・こども園を皆様にご紹介いただけるよう、入園先をお考えいただくうえで参考になるように実行委員一同、今まで以上に内容を工夫して進めてまいります。
どうぞお楽しみに!!

ちばシティポイント
対象事業に登録されました

幼稚園・認定こども園で働きたい方をサポートします!!

厚生労働大臣許可番号：12-コ-300646

- 幼稚園教諭、保育士の資格をお持ちの方や資格取得見込みの方
- 子育て支援員として認定された方
- 上記以外の職種（栄養士、事務員、バスの運転手等）の方
- 子育てを終えて職場復帰を希望されている方

一人ひとりに合わせコーディネーターが就職活動から就職後までサポートします。

幼稚園・認定こども園で働きたい方や再就職を考えている方は、ぜひ、千葉県幼稚園協会HPの求職登録フォームよりご登録ください。資格をお持ちでない方もご相談ください。

千葉県幼稚園協会

検索

公式Twitterはじめました!
(@youchien_chiba)



協会ホームページもご覧ください



子育て電話相談室

毎週水曜日 AM10:00~PM4:00
(夏休み、冬休み、春休みを除く)



0120-510-439

編集後記

今年度も残りわずかとなりました。この1年を振り返り、子どもたち一人ひとりが自分のペースで大きく、たくましく成長した姿を嬉しく感じているこの頃です。

今年度は5月に「平成」から「令和」へ元号が変わり、新しい時代が始まりました。しかし、9月に台風15号が関東に上陸し、その後も台風や大雨、地震などの自然災害があり、また、幼児教育無償化に伴う手続き、インフルエンザの流行など、大変なことがありました。そんななか、原稿を執筆してくださいました皆様へ心より感謝申し上げます。

さて、本号では幼稚園協会主催の研修会や公開保育について取り上げています。保護者の皆様には、園の先生方がどのような勉強をしているか知っていただくと幸いです。また、今後もより良い幼児教育のために努めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

広報委員会では、今後も皆様楽しく読んでいただけるよう努めてまいります。令和2年度もよろしくお願いいたします。

宮原 直美 (千城台南幼稚園)